

ルクソール 見どころ

ルクソールは、エジプト新王国時代の都市テーベがあったところで、政治や宗教、芸術の中心として繁栄してきました。ナイル川東岸には「生」を象徴する建物が、西岸には「死」を象徴する建物があり、市内の遺跡の多くが「**古代都市テーベとその墓地遺跡**」として1979年に世界文化遺産に登録されています。見どころがいっぱいで、エジプト旅行の際は必ず訪れたい街です。

王家の谷



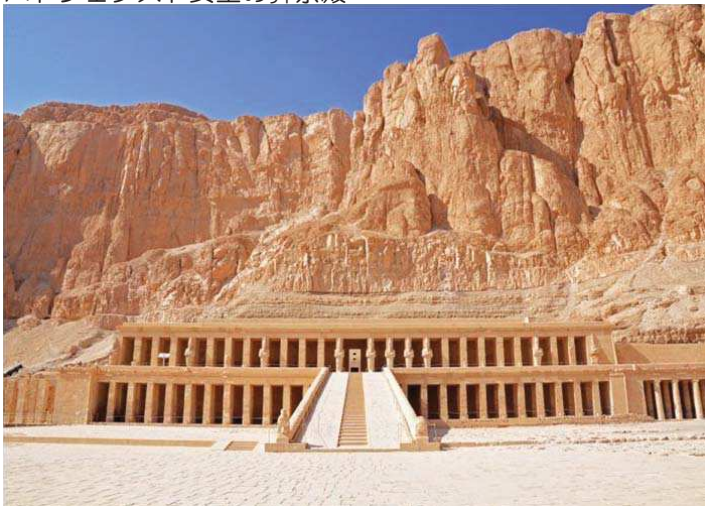
ナイル川の西岸にある「**王家の谷**」では、古代エジプト新王国時代の24の王墓を中心に計64ものお墓が発見されています。ツタンカーメン王のお墓が発見されたのもこの王家の墓です。現在も発掘や修復作業が続けられており、12のお墓が観光客に公開されています。

ルクソール神殿



ナイル川東岸にある「**ルクソール神殿**」は、ルクソールの数ある遺跡の中でほとんどの観光客が訪れる定番中の定番観光スポット。紀元前1550-1295年頃のエジプト第18王朝アメンホテプ3世によって建立されました。敷地内には立派な塔門やオベリスク、アメンホテプ3世の中庭など見どころがたくさんあります。

ハトシェプスト女王の葬祭殿



ハトシェプストは古代エジプトで唯一の女性ファラオで、ルクソール西岸に立派な葬祭殿を残しています。この「**ハトシェプス女王の葬祭殿**」はモダンな造りで、ゴツゴツとした崖を背景にその美しさが際立っていると評判です。外観の堂々とした姿はもちろん、内部の像や装飾もとても美しく、多くの観光客を魅了しています。

メムノンの巨像



古代エジプト新王国時代のアメンホテプ 3 世の 2 つの像「**メムノンの巨像**」。高さはなんと 18 メートルもあり、2 体並んでいることもあってとても存在感があります。入場料などもないので、ルクソール観光の際は少し立ち寄って記念撮影をしてみたいでしょうか。本当に大きくて圧倒されますよ。

カルナック神殿



「**カルナック神殿**」は、東西 540m、南北 600m にも及ぶ壮大な遺跡です。世界最大の神殿建造物と言われています。神殿に向かう参道にはスフィンクスが並んでおり、その堂々たる姿に魅了されます。また、参道の先にある立派な第一塔門も必見

ツタンカーメン王の墓



新王国時代の歴代王が眠る王家の谷にある墓の一つ。17 歳で亡くなった少年王ツタンカーメンの墓だ。1922 年、英国人ハワードカーターが発見し、世界中の注目となった。盗掘をまぬがれていたため、有名な黄金のマスクを始め多くの副葬品が発見された。玄室にはファラオと神々を描いた美しいレリーフがある。